

センター月だより

10月分の活動状況報告

東濃西部少年センター

・声かけ活動

	多治見	瑞浪	土岐	合計
指導件数	10	2	3	15
声かけ件数	527	121	223	871
参加者数	69	32	38	139

(指導日誌より抜粋)

多治見地区

- ・インターモール内のゲームセンターで男子中学生がゲームをしていた。保護者同伴が指導基準であることを話し、帰宅をうながした。(10/1 小泉 5)
- ・小中学生は見かけなかったが、多くの高校生に声をかけた。気持ちの良い返事を返してくれた。コンビニやマンガ喫茶等に寄ったが、問題ないとのことだった。(10/8 昭和 4)
- ・駅北口にバイクを囲んだ大勢の少年たちがいて、警察官も出動していた。喫煙していた男子3名に声かけ指導した。挑発的な態度ではなかったが、まともな返事が返ってこなかった。(10/16 池田 6)
- ・自転車の高校生がスピードを出していて、本町6の交差点で赤信号になり急ブレーキをかけて止まった。スピードを出さぬように注意した。また自転車の並走も多く、注意をした。(10/17 養正 1)
- ・根本交流センター利用の小中高生は、時間を守って速やかに帰宅できている様子。あいさつもしっかり出来、楽しそうだった。スーパー等には子どもの姿はなく問題なしと伺った。(10/17 根本 10)
- ・台風の影響で公園に子どもの姿はなかった。児童館にも子どもが少なかった。ただ、遊んでいた子ども達は元気よく、明るくあいさつしてくれた。(10/26 北栄 11)

瑞浪地区

- ・バロー中央店裏の19号地下通路の壁は、せつかくきれいにされたのに、残念ながらまた悪質な落書きがあった。(10/5 瑞浪 B)
- ・休日明けで、生徒会の「あいさつ運動」はなかったが、校長先生と共にあいさつ運動をした。いろいろ情報をお聞きした。2～3年生の声に元気がない！頑張れ2～3年生。(10/15 陶 E)
- ・化石公園の陸上競技場奥の駐車場で、大学生くらいの男女がコンロを持ち込み、バーベキューを始めるところだった。公園内で火を使うことは禁止であるので、中止するよう指導した。
- ・10月17日の瑞浪地区班長会議で報告された、19号地下通路の落書きは、きれいに消され補修されていた。(10/27 日吉 I)

土岐地区

- ・三起屋2階エスカレータ付近に座っていた高校生に、そこは座っているところでないと声をかける

と、素直に立ち上がり移動した。(10/1 土岐津 1)

- ・駅前階段に少年男女 10 名位の集団。多治見警察署少年サポートセンターの方 2 人が話しかけていた。男子 1 名が火の付いたたばこを持って歩いていたので注意すると、その場で消すが少しふてくされた態度だった。駅ベルマートの方と情報交換。特に問題ないとのこと。(10/2 特 A)
- ・日暮れが早くなり中高生に出会うことが少なかったが、パローの休憩コーナーに高校生 2 人がいたので声かけした。ウェルフェアで職員の方と今後の見守りについて話し合った。(10/11 妻木 3)
- ・女子高校生 2 人が J A とうと土岐口支店前を自転車で通行していた。1 人が無灯火だったので、点灯するように声をかけると、素直に点灯してくれた。(10/21 特 B)
- ・三起屋ゲームコーナー店長より、1 週間ほど前に中学生がゲーム機に水をかけたとの話があった。該当中学の先生に連絡し対応済み。(10/23 泉 9)
- ・寒くなったせいかポケットに手をつっ込んで歩いている子に、「転ぶと危ないから手を出そうね。手袋するといいよ。」と声かけすると、素直に手を出していました。(10/28 鶴里 4)

センターから

日暮れが早くなり、「子どもたちが少なかった。出会えなかった。」との報告が増えています。声かけ活動の目的は、子どもたちに出来る限りたくさん出会って、声かけし、信頼関係を築くことです。「暗い場所や時間に、子どもがいなければ良い。」のではありません。子どものいる場所・時間に声かけ活動が出来るよう、繰り返し見直しをお願いします。

子どもたちの活動は広域化しています。市街地の班も担当する地区だけでなく、時には他の地区や駅前周辺も巡回していただければと、センターでは考えています。

11 月は「子ども・若者育成支援強調月間」です。11 月 9 日、多治見駅前多治見市内の 4 つの高校の生徒達と啓発活動を行いました。それに先立つセレモニーでは、多治見西高校生徒会が司会進行を行い、陶都中学校生徒が吹奏楽を演奏して、盛り上げてくれました。古川市長をはじめ来賓の方も駆けつけていただきました。参加されたみなさん、ありがとうございました。瑞浪市は 11/22、土岐市も 11/18 に他団体の主催で開催されます。センター職員も参加します。指導員のみなさんも要請があった場合はご協力をお願いします。

いいことをさりげなく、悪いことは大げさに



たとえば学校の先生の場合は、いいことを本当にいいこととしてはっきりと言わないと子どもたちに通じませんから、いいことをもっともな口調で言うのに慣れていきます。でも、いいことをいいこととして言うと、みんなが道德家になってしまいます。(略)いつももっともらしい口ぶりになっていくわけです。それはある種の毒です。(略)

そうすると、毒がまわりたくないからどうすればいいか(略)結論として、いいことを言うときはさりげなく、平気な感じで言ったほうがいい。逆に、ちょっと腕白な悪童のようなことを言うときには大きな声で言う。そうすると、毒のまわり方は少ないと思っています。(略)

子どもは子どもなりの感覚で大人を見る目をちゃんと持っていますし、それで判断しているわけです。

吉本隆明著『真贋』より